

科目名 (英)	臨床医学総論	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	
	Clinical Medicine in General	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 2	開講区分	前期
学科・コース	鍼灸科					曜日・時限	
【授業の学習内容】 現代におけるチーム医療において、はり・きゅうなど東洋医療が有効な患者も少なくない。チーム医療を行う上で、すべての医療職種が適切な医療面接技法、診察法、症候について、十分な理解と技能の習得が望まれるべきものである。本時においては、主として西洋医学的な診察法、検査法、症候論について理解し、それら知識が臨床の場においてどのようにに関し、かつ治療において必要となるべき知識であるかを学習し、理解を深める。 種村 実務実績 鍼灸院での診察から治療までの業務に従事 医療系専門学校にて教鞭をとる。 資格 はり師、きゅう師、あん摩マッサージ指圧師							
【到達目標】 臨床の場において患者が言う病名の殆どは病院で医師により診断されたものであり、それら病名に対する西洋医学的知識が、鍼灸治療を行う上でも必須のものとなる。 本時においては、診察の意義とその方法、身体各部における障害の現れ方とそれが及ぼす身体の影響、西洋医学的検査の意義とその方法、臨床の現場でよくみられる症候について、学習し、理解する。その上で、臨床の場において、患者に様々な説明が出来るようになることが本時における到達目標である。 ①医療面接の意義を理解し、臨床の場で行うことができる。 ②全身並びに局所における障害の発生の仕方とその身体的影響を理解し、説明できる。 ③西洋医学的検査法の意義を理解し、説明できる。 ④頭痛や腹痛など、一般的症候により現れる所見・症状を理解し、説明できる。							

授業計画・内容	
1回目	診察の概要・診察の方法(医療面接) 診察の概要、診察(医療面接)の方法を理解し、説明することができる。
2回目	診察の方法 視診、触診、打診、聴診について理解し、説明することができる。
3回目	生命徴候の診察 生命徴候の診察(体温、脈拍、血圧、呼吸)について理解し、説明することができる。
4回目	生命徴候の診察・全身の診察 生命徴候の診察(血圧、体温)、全身の診察(顔貌・顔色、精神状態、言語、身体計測、体型・体格)について理解し、説明することができる。
5回目	全身の診察 全身の診察(体型・体格、栄養状態、姿勢と体位、歩行、皮膚・粘膜・皮下組織)について理解し、説明することができる。
6回目	全身の診察 全身の診察(歩行、皮膚・粘膜・皮下組織、爪の状態、リンパ節)について理解し、説明することができる。
7回目	全身の診察 全身の診察(爪の状態、リンパ節)、局所の診察(頭部、顔面、眼、鼻、耳、口腔、頸部)について理解し、説明することができる。
8回目	局所の診察 局所の診察(口腔、頸部、胸部、乳房、肺・胸膜、心臓、腹部)について理解し、説明することができる。
9回目	局所の診察 局所の診察(腹部、背部、四肢)について理解し、説明することができる。
10回目	局所の診察 局所の診察(四肢)、神経系の診察(感覚検査法)について理解し、説明することができる。
11回目	神経系の診察 神経系の診察(感覚検査法、反射検査、脳神経の検査)について理解し、説明することができる。
12回目	神経系の診察 神経系の診察(脳神経の検査、髄膜刺激症状検査)、運動麻痺における運動機能検査について理解し、説明することができる。
13回目	運動機能検査 運動機能検査(筋肉の異常、不随意運動)について理解し、説明することができる。
14回目	運動機能検査 運動機能検査(協調運動、起立と歩行)について理解し、説明することができる。
15回目	運動機能検査 徒手による整形外科的検査法(主として上肢)について理解し、説明することができる。
準備学習 時間外学習	事前準備 授業開始前に教科書該当する項目を熟読すること 時間外学習 解剖学、生理学の関係する内容を含めて学習すること
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】 教科書: 社団法人 東洋療法学校協会編 奈良信雄著 臨床医学総論 医歯薬出版	

科目名 (英)	臨床医学総論 Clinical Medicine in General	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	種村 啓司
学科・コース	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 2	開講区分 曜日・時限	前期
【授業の学習内容】 現代におけるチーム医療において、はり・きゅうなど東洋医療が有効な患者も少なくない。チーム医療を行う上で、すべての医療職種が適切な医療面接技法、診察法、症候について、十分な理解と技能の習得が望まれるべきものである。本時においては、主として西洋医学的な診察法、検査法、症候論について理解し、それら知識が臨床の場においてどのように関連し、かつ治療において必要となるべき知識であるかを学習し、理解を深める。 種村 実務実績 鍼灸整骨院での勤務後、鍼灸院指圧院を開院。診察から治療までの業務に従事 医療系専門学校にて教鞭をとる。 資 格 はり師、きゅう師、あん摩マッサージ指圧師							
【到達目標】 臨床の場において患者が言う病名の殆どは病院で医師により診断されたものであり、それら病名に対する西洋医学的知識が、鍼灸治療を行う上でも必須のものとなる。 本時においては、診察の意義とその方法、身体各部における障害の現れ方とそれが及ぼす身体の影響、西洋医学的検査の意義とその方法、臨床の現場でよくみられる症候について、学習し、理解する。その上で、臨床の場において、患者に様々な説明が出来るようになることが本時における到達目標である。 ①医療面接の意義を理解し、臨床の場で行うことができる。 ②全身並びに局所における障害の発生の仕方とその身体的影響を理解し、説明できる。 ③西洋医学的検査法の意義を理解し、説明できる。 ④頭痛や腹痛など、一般的症候により現れる所見・症状を理解し、説明できる。							

授業計画・内容	
16回	運動機能検査・臨床検査法 徒手による整形外科的検査法(主として下肢)、臨床検査法(尿検査)について理解し、説明することができる。
17回	臨床検査法 臨床検査法(尿検査、便検査、血液生化学検査)について理解し、説明することができる。
18回	臨床検査法 臨床検査法(血液生化学検査)について理解し、説明することができる。
19回	主な症状の診察法 主な症状の診察法(頭痛、顔面痛、鼻閉・鼻汁、めまい、耳鳴り)について理解し、説明することができる。
20回	主な症状の診察法 主な症状の診察法(耳鳴り、難聴、動悸)について理解し、説明することができる。
21回	主な症状の診察法 主な症状の診察法(難聴、息切れ、動悸)について理解し、説明することができる。
22回	主な症状の診察法 主な症状の診察法(胸痛、腹痛、便秘)について理解し、説明することができる。
23回	主な症状の診察法 主な症状の診察法(便秘、下痢、月経異常、排尿障害)について理解し、説明することができる。
24回	主な症状の診察法 主な症状の診察法(乏尿・無尿、多尿、浮腫)について理解し、説明することができる。
25回	主な症状の診察法 主な症状の診察法(浮腫、肩こり、頸肩腕症痛)について理解し、説明することができる。
26回	主な症状の診察法 主な症状の診察法(頸肩腕痛、肩関節痛、腰下肢痛)について理解し、説明することができる。
27回	主な症状の診察法 主な症状の診察法(腰下肢痛、食欲不振、肥満、やせ)について理解し、説明することができる。
28回	主な症状の診察法 主な症状の診察法(やせ、発熱、不眠、発疹)について理解し、説明することができる。
29回	主な症状の診察法 主な症状の診察法(発疹、ショック、貧血、口渇)について理解し、説明することができる。
30回	主な症状の診察法 主な症状の診察法(意識障害)について理解し、説明することができる。
準備学習 時間外学習	事前準備 授業開始前に教科書該当する項目を熟読すること 時間外学習 解剖学、生理学の関係する内容を含めて学習すること
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】 教科書: 社団法人 東洋療法学校協会編 奈良信雄著 臨床医学総論 医歯薬出版	